

全国大学書道学会

会報

25

令和3年(2021)
2月15日発行
全国大学書道学会

ポストコロナ

理事長 横田 恭三

昨年一月、中国の武漢市ではじめて確認された新型コロナウイルス、瞬く間に世界に拡大し、一年を経過した今も終息の兆しが見えません。昨年九月に予定していた香川大会は中止となり、令和三年九月に延期しました。今後のコロナ禍の行方が気になるのですが、二年連続で中止に追い込まれることだけは何としても避けたいと念じております。

今年度は、コロナ禍によって全ての事業が厳しい状況下に置かれていましたが、『大学書道研究』(第十四号)は予定通り発行(例年、翌年六月上旬に配付)致します。大会中止により研究発表はできませんでしたが、会員の方々から応募された論文は、予定通り十二月に査読委員による査読を終え、その結果をもとに学術委員会を開催して厳正に判定しました。研究誌の発行は、学会の基幹となる重要な事業の一つであり、その査読にあたっては公正かつ公平を旨としておりますので、何卒ご理解のほどをお願い申し上げます。

この一年、大学ではオンライン授業が主となったため、多くの教員が新たな教材作りに追われ、学生は通常の学びの場だけでなく、友人との交流の場さえも失われてしまいました。コロナ禍の教訓から、今後、各大学では授業形態や運営について、少なからずICTやAIを活用した教育に舵を切るものと思われまます。書道教育においては、対面授業が基本であることは言うまでもありませんが、同様な事態に備えて、どのような授業展開が可能なのか、それなりに検討しておく必要があるように感じています。

会員諸氏のお考えは如何でしょうか。

「普通」であること

副理事長 永由 徳夫

今期(令和二年四月～同四年三月)、副理事長を拝命しました群馬大学の永由徳夫と申します。四期目となる横田恭三理事長を支え、微力ながら本会の発展のために尽くしたく存じますので、皆様のお力添えを賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

厳しさを増す社会情勢に鑑み、洵に断腸の思いでありましたが、令和二年度の香川大会は中止、そして次年度に延期と決定せざるを得ませんでした。香川大学の小西憲一先生には、長期に亘りご負担・ご心痛をお掛けすることとなり、大変申し訳なく思っております。

コロナ禍による大会中止に伴い、本会では、少しでも会員の皆様に益有る形で還元をと考え、『書の古典と理論』(改訂版)(二〇二〇年三月発行)を一冊ずつ呈上すること致しました。既に大方の会員の皆様のお手元に届いていることと存じます。より一層、学書に適するよう改訂しておりますので、大いにご活用くださり、江湖に普く喧伝していただけますと幸いです。

この小稿を物す年頭においても、新型コロナウイルス感染拡大の報が陸続と流れ、収束の気配が全く感じられません。「普通」であることが、かくも有り難きことであつたかと痛感する日々です。美術館・博物館でもさまざまな配慮をしながら展覧会を開催していますが、普通の状態には遠く及びません。当たり前のように名品に接していたあの眼福のひとは、等しく与えられる普通の時間ではなかったのかと、今更ながら愛おしい感覚に襲われます。

「普通」であることは、実はとても難しい。あたかも禅問答の如くではあります。が、「普通」であるためには、細心の注意を払い、さらには強い意志を以て「普通」でありたいと、倦まず努力しなければ得られないものである、ということをご一年で学びました。ありふれた日常という名の、ごく平凡な「普通」の日々を取り戻し、来年度の大会は、ぜひ全国の会員の皆様と一堂に会する形で開催したいと強く念じております。

全国大学書道学会 令和2（2020）年度 事業報告

新型コロナウイルス感染症が全国に蔓延し、事態に収束の兆しが見られないことから、令和2年(2020)9月18日(金)～20日(日)(全国大学書道学会：9月20日)に予定していた書道三学会・香川大会は中止とした。なお、令和3年(2021)9月に香川大会を延期する方向で検討している。

資料1

令和元（2019）年度 事業報告 → 承認

(令和元年) 6月1日……『大学書道研究』第12号、会報、鳥取大会第1次案内、会員書作展出品要項等、発送
 7月10日……鳥取大会研究発表申込締切日
 7月13日……常任理事会（鳥取大会について、発表者及び発表順、総会議事案等の検討）、三学会合同役員会
 8月16日……令和元年度会員書作展作品送付締切日
 8月19日……鳥取大会第2次案内、発表要旨集、発送
 9月10日……学会誌論文投稿申込締切日
 9月27日～29日…令和元年度会員書作展（鳥取大学広報センター）
 9月27日……理事会（鳥取大会、役割分担確認、総会議事等の検討）
 9月28日……令和元年度（鳥取）大会（総会、研究発表、記念講演）
 9月28日……三学会合同懇親会
 11月10日……『大学書道研究』投稿論文受付締切日、学会誌投稿論文査読（11月下旬～）
 12月下旬……常任理事会（査読結果確認及び学会誌の発行について）
 (令和2年) 1月～3月……『大学書道研究』第13号編集
 3月15日……三学会合同役員会（各理事長、事務局長のみ参加）（鳥取大会の振り返り、令和2年度香川大会について）

資料2

令和元（2019）年度 決算報告 → 承認

A：収入の部

1	2018年度繰越金	4,945,140 円
2	2019年度会費（232口）	1,537,000 円
3	『書の古典と理論』印税	300,888 円
4	雑収入	
	鳥取大会参加費等残金	139,249 円
	会員書作展協賛費残金	0 円
	（協賛費 378,000 円〔@ 7,000 円× 54 名〕－表装料 378,000 円）	
	60周年記念出版『王鐸・傅山』	2,000 円
	預金利子	8,554 円
合 計		6,932,831 円

B：支出の部

1	鳥取大会運営補助費（120,000 円）・謝金（50,000 円）	170,000 円
2	理事会費（会議費・交通費）	413,696 円
3	印刷費（学会誌№ 12. 294,840 円 会報№ 22. 86,978 円 № 23. 124,986 円）	506,804 円
4	通信費	54,542 円
5	事務費（消耗品費・振替手数料 37,275 円 等）	95,174 円
6	東洋学・アジア研究連絡協議会費	2,000 円
7	ホームページ保守・更新費	39,960 円
8	雑費	18,000 円
合 計		1,300,176 円

● A - B（6,932,831 円 - 1,300,176 円）= 5,632,655 円（前年度比 + 687,515 円）※次年度繰越金

上記の通り報告いたします。
 以上相違ありません。

令和2年6月1日
 令和2年6月1日

会計局
 監 査
 同

尾川 明穂 ㊞
 石井 健 ㊞
 山口 恭子 ㊞

資料3 令和2（2020）年度 事業計画（案） → 承認

(令和2年)	4月20日	……令和2年度香川大会の中止決定
	6月1日	……『大学書道研究』第13号、会報、香川大会中止のお知らせ等、発送
	7月11日	……常任理事会（オンライン）、（今年度学会運営について）
	7月15日（中止）	……常任理事会、三学会合同役員会（予定）
	9月1日	……理事会（書面発送）
	9月10日	……学会誌論文投稿申込締切日
	9月18日～20日（中止）	書道三学会・香川大会（予定）
	10月1日	……総会（書面発送）
	11月10日	……『大学書道研究』投稿論文受付締切日、学会誌投稿論文査読（11月下旬～）
	12月下旬	……常任理事会（査読結果確認及び学会誌の発行について）
(令和3年)	1月～3月	……『大学書道研究』編集
	3月中旬	……常任理事会／三学会合同役員会（本年度学会運営について、令和3年度大会について）

資料4 令和2（2020）年度 予算（案） → 承認

A：収入の部		
1	2019年度繰越金	5,632,655 円
2	2020年度会費（225 口）	1,350,000 円
3	『書の古典と理論』印税	250,000 円
4	雑収入（預金利子等）	7,345 円
合 計		7,240,000 円
B：支出の部		
(1	大会運営補助費・謝金	0 円)
2	理事会費（会議費・交通費）	400,000 円
3	印刷費（学会誌No.13 会報No.24, No.25）	600,000 円
4	通信費	100,000 円
5	事務費（消耗品費・振替手数料）	150,000 円
7	東洋学・アジア研究連絡協議会費	2,000 円
8	ホームページ保守・更新費	40,000 円
9	予備費	5,948,000 円
合 計		7,240,000 円

資料5 令和2年度香川大会中止への対応（『書の古典と理論』贈呈について） → 承認

〈総会議案承認に関する対応〉	
大会中止を受け、本年度内に総会を改めて開催することは諸般の事情からきわめて困難だと判断されるため、今回は総会議案の書類を郵送し、会員の方々よりご意見をいただくことで総会に代え、承認を得た。	
（意見の締め切り：10月31日（土））	

二〇二〇年度全国大学書道学会 会員・準会員一覧

相川 匡也	栃木県	元武蔵野大学	太田 知美	北海道	北海道札幌平岸高等学校	河島 由弥	神奈川県	帝京大学	下田真奈美	宮城県	宮城教育大学
青木 馨子	東京都	静岡大学	太田 将浩	新潟県	新潟大学大学院	河内 利治	東京都	大東文化大学	霜触 智会	群馬県	大泉町立南小学校
青木 悟	静岡県	米子市立美術館	大野 幸子	埼玉県	桜蔭中・高等学校	川原 淳	東京都	広島大学大学院	白鳥ゆう子	神奈川県	立正大学
青木 辰樹	埼玉県	埼玉県立高等学校	大橋 修一	福岡県	埼玉大学名誉教授	岸野 大	東京都	東京大学史料編纂所	城間 圭太	東京都	沖縄県
青戸 貴子	鳥取県	米子市立美術館	大森アユミ	福岡県	長崎大学	北畠 康成	大阪府	精華高等学校	水田至摩子	埼玉県	熊本大学名誉教授
青山 浩之	神奈川県	横浜国立大学	岡崎 忍	神奈川県	相模女子大学中部	衣川 彰人	愛知県	愛知教育大学	杉浦 妙子	東京都	二松学舎大学
秋山 恵子	長野県	星野学園小学校	岡島 正秀	大阪府	武庫川女子大学	木村 博昭	愛知県	愛知教育大学	杉崎 哲子	静岡県	静岡大学
浅井 陽子	埼玉県	愛知教育大学	岡田 直樹	兵庫県	京都教育大学	木村 亮太	群馬県	群馬大学大学院	杉山 勇人	神奈川県	鎌倉女子大学
浅野 多鶴	岐阜県	昭和女子大学附属昭和高等学校	岡田 新子	東京都	桐朋女子中・高等学校	清 孝生	北海道	北海学園大学	鈴木 清	香川県	長崎大学
網代 菜摘	神奈川県	相模女子大学	岡村 浩	新潟県	新潟大学	金 貴粉	東京都	国立ハンセン病資料館	鈴木 慶子	福岡県	鳥取大学
足立 敦子	茨城県	茨城県立八千代高等学校	尾川 明穂	茨城県	筑波大学	草津 祐介	東京都	都留文科大学	砂川さつき	福岡県	鹿児島大学
荒井 一浩	東京都	東京学芸大学附属高等学校	小川 崇	埼玉県	県立坂戸高等学校	久保田陽子	東京都	岩手大学	住川 英明	鳥取県	鳥取大学
荒金 治	大分県	別府大学名誉教授	小川 貴史	新潟県	県立新潟高等学校	熊坂 尚史	東京都	果鴨中・高等学校	瀬筒 寛之	鹿児島県	鹿児島大学
荒金 信治	茨城県	都立世田谷総合高等学校	小川 博章	東京都	淑徳大学	黒田 悟史	群馬県	群馬県立女子大学	芹澤麻美子	埼玉県	千葉大学教育学部附属小学校
安生 成美	神奈川県	志学館中学校	奥 光真	茨城県	県立牛久柴進高等学校	計良 裕佳	静岡県	静岡大学	染谷 慶子	埼玉県	大東文化大学大学院
五十嵐ももこ	神奈川県	麻布学園	押木 秀樹	新潟県	上越教育大学	見城 正訓	東京都	武蔵野大学大学院	高木 厚人	千葉県	大東文化大学
五十嵐康子	千葉県	大阪教育大学	押野 加奈	東京都	東京学芸大学大学院	高 蓍宣	福岡県	九州女子大学	高橋 克匡	岩手県	岩手県
池田 孝一	奈良県	恵泉女学園大学	落石 園美	東京都	埼玉大学	古木 誠彦	岡山県	岡山明誠学院高等学校	鷹啄 知美	埼玉県	埼玉県
池田 利廣	東京都	新潟大学大学院	折川 司	東京都	相模女子大学名誉教授	小竹 正高	香川県	香川大学	高橋美穂子	神奈川県	県立深谷第一高等学校
石井 健	東京都	東京学芸大学	柿木原くみ	東京都	出光美術館	小西 憲一	神奈川県	大妻中野中・高等学校	高柳 幸雄	東京都	二松学舎大学
伊豆名皓美	東京都	昭和女子大学	笠嶋 幸志	東京都	九州造形短期大学	小林 拓也	神奈川県	信州大学	滝口 雅弘	群馬県	上武大学
板橋 聡美	東京都	跡見学園女子大学	加藤 達成	東京都	佛教大学	小林 比出代	群馬県	群馬大学大学院	武井 彩香	三重県	佐賀大学名誉教授
伊藤彩里沙	埼玉県	高崎市立中居小学校	加藤 達	東京都	女子美術大学	小林 恵	岐阜県	関市立関商工高等学校	竹嶋 秀聡	徳島県	徳島県立文学書道館
井上 悠	群馬県	武蔵野大学大学院	加藤 泰弘	東京都	東京学芸大学	権田 瞬一	千葉県	茨城大学	竹之内裕章	東京都	東京学芸大学大学院
今井 裕登	群馬県	前橋市立桃井小学校	加藤 祐司	埼玉県	東京学芸大学名誉教授	齋木 久美	埼玉県	大東文化大学	立石 充	東京都	東京学芸大学大学院
今井 裕登	群馬県	前橋市立柏川小学校	香取 潤哉	千葉県	茨城県立那珂湊高等学校	齋藤 克美	埼玉県	前橋市教育委員会	田中 有紗	東京都	東京学芸大学大学院
岩原 優花	群馬県	県立沼田高等学校	金子 章乃	東京都	出光美術館	齋藤 英男	埼玉県	武蔵野学院大学	田中 秀征	東京都	東京学芸大学大学院
内門 亮子	東京都	専修大学	金子 馨	神奈川県	実践女子大学	坂井 昭彦	新潟県	新潟大学教育学部附属新潟中学校	谷口 邦彦	北海道	安田女子大学
内山 裕美	東京都	東京学芸大学大学院	金田 充康	滋賀県	実践女子大学	佐々木佑記	東京都	五島美術館	谷橋 由花	北海道	安田女子大学
浦 有希	東京都	東京学芸大学大学院	亀田絵里香	埼玉県	実業女子大学	佐藤 有紗	新潟県	新潟大学大学院	田畑 理恵	東京都	川村学園女子大学
浦野 俊則	埼玉県	植草学園大学	嘉屋 孝彦	山口県	県立広島皆実高等学校	佐藤 英樹	千葉県	早稲田大学大学院	玉澤 友基	岩手県	岩手大学
大柄みや子	東京都	県立太田フレックス高等学校	萱 のり子	山口県	県立広島皆実高等学校	塩出智代美	広島県	安田女子大学	田村南海子	広島県	安田女子大学
大島 史子	群馬県	県立太田フレックス高等学校	萱原 晋	東京都	カリタス女子短期大学	小竹 光夫	奈良県	奈良学園大学	淡海書道文化専門学校	滋賀県	滋賀県
大住諭紀仁	兵庫県	県立出石高等学校	川合広太郎	埼玉県	NHK学園高等学校	渋谷みどり	静岡県	静岡大学	丁 磊	京都府	佛光大学大学院
太田 剛	徳島県	四国大学	川内 佑毅	東京都	東洋大学	清水 文博	山梨県	山梨大学	出野 文莉	奈良県	大阪教育大学
						下田 章平	神奈川県	相模女子大学	塚本 宏	東京都	和洋女子大学名誉教授
									辻 尚子	徳島県	四国大学

津田 好一	埼玉県 二松学舎大学	樋口 咲子	群馬県 千葉大学	山崎真由美	東京都 都立新宿高等学校
角田 勝久	新潟県 新潟大学	備前 徹	東京都 専修大学	山下 由季	東京都 東京学芸大学
津村 幸恵	千葉県 千葉大学	平田 光彦	東京都 武蔵野大学	山田 典生	福井県 福井大学
徳泉 さち	東京都 東京学芸大学	廣瀬 裕之	東京都 武蔵野大学	山本 彩	広島県 筆の里工房
利光亜希子	福岡県 筑紫女学園高等学校	福井 淳哉	東京都 帝京大学	山本 興	島根県 県立松江農林高等学校
土橋 幸正	広島県 比治山大学名誉教授	福島 一浩	東京都 二松学舎大学	山元 宣宏	宮崎県 宮崎大学
飛田 博昭	茨城県 県立太田第一高等学校	藤原 真子	東京都 武蔵野大学大学院	山本まり子	東京都 お茶の水女子大学
登丸 昌子	神奈川県 横浜国立大学附属横浜小学校	藤井俊太郎	群馬県 共愛学園高等学校	山本 祐司	愛知県 中部大学
豊川 和士	神奈川県 文教大学	藤森 大雅	埼玉県 大東文化大学書道研究所	湯川 恵子	千葉県 日本放送協会学園
豊島 嘉穂	福岡県 四国大学	細谷 恵志	千葉県 立正大学	横倉 佳男	神奈川県 国学院大学
豊田 宗児	奈良県 奈良教育大学	ボボリーキナ エカテリーナ		横田 恭三	埼玉県 跡見学園女子大学
鳥本 純平	京都府 府立洛西高等学校	本多 和宏	東京都 東京学芸大学大学院	横山 佳通	静岡県 名古屋芸術大学
仲川 恭司	埼玉県 元専修大学	本田 容子	神奈川県 鎌倉女子大学	吉澤 義和	埼玉県 元文教大学
中嶋 久美	青森県 弘前大学	前川 知里	東京都 大東文化大学大学院	吉田 真	東京都 日本パソコン能力検定委員会
中根 安治	愛知県 岐阜女子大学	牧野 浩二	大阪府 四天王寺大学	和田 圭壮	福岡県 福岡教育大学
中村 薫	東京都 大東文化大学人文科学研究所	増田 尚子	千葉県 東洋大学	渡瀬 仁	福岡県 福岡教育大学
中村 史朗	京都府 滋賀大学	松浦 貢	埼玉県 東洋大学	渡瀬 亮太	東京都 大東文化大学大学院
長尾 秀則	京都府 佛教大学	松尾 治	埼玉県 専修大学		(十二月十五日理事会承認)
長野 秀章	東京都 東京学芸大学名誉教授	松原 直也	東京都 県立岐阜農林高等学校		
永由 徳夫	東京都 群馬大学	松本 貴子	千葉県 大東文化大学		
名部 勝美	滋賀県 淡海書道文化専門学校	松本 仁志	広島県 広島大学		
浪江加奈子	岐阜県 岐阜女子大学	松本 美恵	兵庫県 関西大学大学院		
浪田美智枝	北海道 都立竹早高等学校	丸山 果織	兵庫県 神戸松蔭女子学院大学		
成瀬 靖子	東京都 北海道教育大学旭川校	三浦 拓真	愛知県 県立西尾東高等学校		
西川 竜矢	北海道 攻玉社中・高等学校	水木 亮子	富山県 県立となみ野高等学校		
西田 健	東京都 高野山大学	三井 忠大	東京都 陽山美術館		
仁田幸一郎	大阪府 岐阜女子大学	宮澤 正明	山梨県 山梨大学特任教授		
野田 悟	新潟県 安田女子大学	森 哲之	広島県 広島文教大学		
野中 浩俊	広島県 東京学芸大学	森岡 隆	茨城県 筑波大学		
信廣 友江	埼玉県 東京学芸大学	森上 洋光	徳島県 四国大学		
橋本 栄一	東京都 東洋大学	森下 弘	広島県 安田女子大学		
蓮見 行廣	東京都 県立横浜桜陽高等学校	森山 秀吉	熊本県 熊本県立大学		
長谷川千栄子	神奈川県 県立横浜桜陽高等学校	安 裕明	茨城県 茨城大学		
服部 一啓	福岡県 福岡教育大学	安原 亜悠	岡山県 県立玉島高等学校		
濱田 瑞美	神奈川県 横浜美術大学	柳田さやか	神奈川県 東京芸術大学		
濱田 尚文	千葉県 県立市原高等学校	矢原 徳子	広島県 静岡大学		
早川 桂央	神奈川県 保善高等学校	山内 常正	静岡県 静岡大学		
林田俊一郎	熊本県 尚綱大学	八巻 敏幸	奈良県 大阪樟蔭女子大学		
東 賢司	愛媛県 愛媛大学	山口 恭子	東京都 法政大学		
東野 敏夫	大阪府 大阪樟蔭女子大学				

総会員数 二四九名

(二〇二〇年十二月末日現在)

山崎真由美	東京都 都立新宿高等学校
山下 由季	東京都 東京学芸大学
山田 典生	福井県 福井大学
山本 彩	広島県 筆の里工房
山本 興	島根県 県立松江農林高等学校
山元 宣宏	宮崎県 宮崎大学
山本まり子	東京都 お茶の水女子大学
山本 祐司	愛知県 中部大学
湯川 恵子	千葉県 日本放送協会学園
横倉 佳男	神奈川県 国学院大学
横田 恭三	埼玉県 跡見学園女子大学
横山 佳通	静岡県 名古屋芸術大学
吉澤 義和	埼玉県 元文教大学
吉田 真	東京都 日本パソコン能力検定委員会
和田 圭壮	福岡県 福岡教育大学
渡瀬 仁	福岡県 福岡教育大学
渡瀬 亮太	東京都 大東文化大学大学院

(十二月十五日理事会承認)

年会費納入のお願い

本年度年会費が未納の方は、2月末日までに納入くださるよう、お願いいたします。

〈昨年度まで完納されている会員〉

* 年会費は、会員6,000円、準会員(大学院生)5,000円です。準会員は、大学院修了後、会員資格として取り扱います。

〈昨年度までに未納分がある会員〉

* 未納分のある場合は、その旨を「払込取扱票」に記載しておりますので、本年度分と併せて納入ください。

■口座番号 00110-9-613810

■加入者名 全国大学書道学会

〈全国大学書道学会 会計局〉

〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学芸術系 尾川研究室内

TEL・FAX: 029-853-2717

E-mail: ogawa@geijutsu.tsukuba.ac.jp

コロナ禍の授業を振り返って

岩手大学 久保田 陽子

一年前には想像もしなかった状況であるが、顧みると意外にも失ったものばかりではなかったことに気づかされる。また、日々の営みが制限され煩雑なことが増えたものの、生活や教育、研究、活動の本質は変わらないことを認識することができたように思う。以下、春からの授業を振り返る。

勤務校では前期の授業は一律に遠隔授業が推奨され、実技も遠隔での実施となった。主に、臨書や做書作品の画像データをメールに添付させ、添削して同様に返却する方式をとった。お互いに課題漬け、添削漬けの毎日であったが、学生には主体性や鑑賞眼、仮名の基礎・基本技術が身に付いたとみられ、後期の授業は大分楽になった。

しかし、課題も見つかった。臨書に付随するレポートの作成である。前期は図書館の利用を推奨できず、ウェブ上で検索できる文献にも限りがあったが、ブログの記事を引用する学生が現れ頭を抱えた。他大学の先生方はどうなさっていたのか、コンテンツ紹介と併せてご教示頂けると有難い。

座学は、スライドを学内システムに掲載し、アンケート機能でコメントや課題を提出させた。教養系科目では、コロナ禍同様の怖れや不安を契機とした古筆を紹介して古人から励まされたような気持ちになったり、学生のコメントから勇気をもったりした。教員仲間からの情報提供やコンテンツ提供も有難く、遠隔状況下での人の繋がりに助けられた。

後期からは対面授業が可能となったが、学生数によって引き続き遠隔授業を行っている科目もある。本学ではまだ感染者は出ていないが、学生展の二件の中止が既に決まり、卒業制作展の開催は学外・学内・ウェブ発表のいずれにするか未定である。

対面と遠隔のそれぞれの効果が判明し、指導に有効な引き出しが増えたことは喜ばしい。しかし、書道がコミュニケーションに資する以上、遠隔授業やウェブ展覧会では不完全である。事態の収束後を見据え、この状況を経験したからこそ展開できるより良い授業の方策を、引き続き練りたいと思う。

令和二年度大学授業報告

専修大学 松尾 治

各大学のキャンパスは静まりかえっているが、オンラインの向こうでは熱い奮闘が繰り広げられたのではないだろうか。いまだコロナ禍にあつて、これまで様々な問題を一から克服してきたつもりだが、この紙面でその歩みを反省する機会になればと思う。

① 授業開始前

本学では授業を基本的にGoogle Classroomで行うこととなった。分厚い説明書を見ながら手探りでスタートした時は不安しかなかった。授業の質を落とさないで済むよう努めたが、特にアナログ教材を全てデジタル教材（範書録画含む）へ変換するのに膨大な時間を要した。

② 前期授業（五月十一日～十二回）

授業開始当初は、学生のネット環境把握等に努めた。オンデマンド授業ではなく、オンタイムでの授業が推奨され、情報量の多い動画配信は控えることが要求された。しかし、オンラインの授業でもオンタイムだと緊張感があり、特に、チャットを活用した発問は対面の時以上に反応が早く、驚かされた次第である。これからの授業の手立ての一つになりえるだろう。

③ 後期授業（九月二十一日～十三回）

一年生にも配慮し、対面授業が必須の書道実技や教育実習関連科目（書道科教育研究）そして、専門指導性の高いゼミナールや卒業論文指導などが、条件付きで漸く行うことが出来るようになった。この頃になると、地方に帰省している学生も多くなり、オンラインでのリモート授業と対面授業によるハイブリットとなり仕事量が倍増した。ただし、リモート授業では、PCカメラは当初範書にしか使用しなかったが、後半は美術館から鑑賞指導を行うことができた新鮮に感じた。今後も活用範囲を模索したい。

④ 評価

Google Classroomの提出機能を活用するとレポート課題や、実技作品の画面映像での提出、通信添削は簡便で良いが、どうしても時間がかかってしまうし、評価には不向きである。よって、私は実物での評価に拘りレターパックによる提出、返送を行うこととした。仕方ないことと考えている。

近いうち、大学の授業はオンラインと対面の両輪になっていくであろう。柔軟な対応が求められる。今後、そうした教材研究にも力を注いでいきたいが、何より書道教員同士の情報交換・共有ができればと願う。

古筆見のしごと

五島美術館 佐々木 佑記

東京・世田谷にある五島美術館は、令和二年（二〇二〇）四月に開館六十周年を迎えました。令和元年（二〇一九）秋に当館学芸員として着任し一年余り、微力ながら収蔵品管理や展示に携わっております。

令和三年（二〇二二）春の優品展では、「古筆を知る」というテーマのもと、五島美術館と大東急記念文庫の収蔵品から、古筆を中心に歌仙絵や工芸作品など約五〇点を展覧します。本展では江戸時代の筆跡鑑定家・古筆見にも目を向けながら、鑑定結果を記した「極札」などの付属資料を一部紹介するほか、版本『古筆名葉集』『慶安手鑑』も併せて出陳予定です。

近年における古筆見の鑑定活動についての研究は、中村健太郎氏の一連の論考や村上翠亭他監修『古筆鑑定必携 古筆切と極札』（淡交社・二〇〇四年）などが挙げられます。当館収蔵品の極札については、小松茂美『古筆学大成』（講談社・一九八九年）のご論考や作品解説、また『五島美術館の名品【絵画と書】』（五島美術館・一九九八年）に一部が紹介されています。このほか国文学における先行研究にないつつ、現在は、当館が収蔵する古筆切およそ七〇件について、極札や箱書付を含む基礎情報の逐次公開を目標に調査を進めています（拙稿「五島美術館所蔵 古筆切集録『万葉集』編」『五島美術館研究紀要』第八号、二〇二〇年）。

古筆見たちが鑑定を手がけた対象は、古筆に限らず、絵画・古写経・墨跡・茶道具にも及びます。今回の展示では、ごく一部ですが、歌仙絵や古写経、茶道具に付属する極札を併せてご覧いただくことで多彩な「古筆見のしごと」の一端をご紹介できればと思っております。

〔館蔵〕春の優品展「古筆を知る」二〇二二年四月三日（土）―五月九日（日）

休館日 〓 毎月曜日（五月三日は開館）、五月六日（木）

会場 〓 五島美術館 一五八・八五〇 東京都世田谷区上野毛三・九・二五

* 新型コロナウイルスの影響で、会期等が変更となる場合もあります。

ご来館の前に五島美術館のウェブサイトを等で最新情報をご確認ください。

近年新出の唐代石刻三種

相模女子大学 下田 章平

本年度はコロナウィルスが蔓延し、中国書道史関係の新出土資料の情報もすっかりその影に隠れてしまった感があるが、稿者が着目した近年新出の唐代石刻三種を紹介したい。

二〇一五年に西安で出土した馮承素の撰書になる「大唐故左監門長史馮府君墓誌銘」の初拓本（六五九、西安碑林博物館所蔵）が刊行された（李旭文編『馮承素書馮師英墓志銘』、河南美術出版社、二〇一九）。この墓誌は承素の父の師英（五八九―六五九）のために書かれたものであり、文字は扁平で温雅な虞法に近い。陳振濂氏は初唐の新四大家の一人として位置づけている。

二〇一三年に深圳望野博物館（私設博物館）が収蔵した「李訓墓誌」（七三四）が日本の各種報道機関で報じられて話題となった。吉備真備（六九五―七七五）が入唐中に書したこの墓誌は端正で謹厳な欧法に似た書風であり、当時の日中書法交流を窺う上で重要な資料である。閻焱『日本国朝臣備書丹緒思光撰文鴻臚寺丞李訓墓志考』、文物出版社、二〇一九）に詳しい。

二〇一九年に浙江大学芸術考古博物館で公開された顔真卿「修梁吳興太守柳文暢西亭記」（図、七七七、藝文書院提供）は残碑で二六四字が現存する。顔真卿の中晩年の作品であり、「蚕頭燕尾」に代表される顔法の解明する手がかりとなるものである。『金石書学』第三三三号（二〇二〇年六月）に特集が組まれ、明晰な図版と解説が見られる。

これらは中国関係書籍専門店が刊行した今年度の目録に記されたものである。興味をお持ちの方は是非書店に問い合わせ頂きたい。



会員の異動（新入会員・準会員／退会・退会申出者）

※2019年度大会開催後の会員の異動

《会 員》	横山 佳通	名古屋芸術大学	
	久保田陽子	岩手大学	
	網代 菜摘	昭和女子大学附属昭和高等学校	／推薦者：橋本 栄一
	西田 健	攻玉社中学校・高等学校	／推薦者：橋本 栄一
	川内 佑毅	東洋大学	
	浪江加奈子	岐阜女子大学	／推薦者：中根 安治
	八巻 敏幸	大阪樟蔭女子大学	
《準 会 員》	内山 裕美	東京学芸大学大学院修士課程	／推薦者：橋本 栄一
	田中 秀征	東京学芸大学大学院修士課程	／推薦者：橋本 栄一
	押野 加奈	東京学芸大学大学院教職大学院	／推薦者：橋本 栄一
	田中 有紗	東京学芸大学大学院教職大学院	／推薦者：橋本 栄一
	木村 亮太	群馬大学大学院修士課程2年	／推薦者：永由 徳夫
	小林 祐太	群馬大学大学院修士課程2年	／推薦者：永由 徳夫
《退会・退会申出者》 河合 仁 倉持 優子 小林 圭 鈴木 晴彦 平形 精一			

『書の古典と理論』〔改訂版〕の送付について

総会における承認を受け、会員・準会員各位へ全国大学書道学会編『書の古典と理論』〔改訂版〕を1冊ずつ贈呈いたしました。すでにお持ちの方もいらっしゃるかと存じますが、これを機にまたご活用頂けたら幸いです。

なお不届ながら、今年度の会費を11月23日までに納入していただいている会員・準会員各位に対して優先的に送付しております。（上記期日までに振込みのなかった方には、お送りしておりません。令和3年2月末日までにお振込みいただけた方には改めて送付いたします。）

新入会員推薦のお願いならびに入会申し込みについて

会員の皆様から、新入会員（準会員）をご推薦いただき、本会の一層の充実を図りたいと考えております。全国大学書道学会ホームページより申込用紙をダウンロードし、お申し込みいただきたくお願い申し上げます。

〈入会手続き〉

※「新入会員用会員票（入会申込書）」に必要事項を記入の上、事務局まで郵送またはPDF送付をお願いします。

※年会費は、会員6,000円、準会員5,000円です。なお、大学院生（準会員）は、大学院修了後は、会員の資格として扱います。

※送金は、事務局まで郵便振替振込用紙（赤色用紙）をご請求いただき、郵便振替にてお願いいたします。（用紙の通信欄に「新入会員入会年度年会費」もしくは「新入準会員入会年度年会費」と明記してください。）

〈全国大学書道学会事務局〉

〒247-8512 神奈川県鎌倉市大船6-1-3 鎌倉女子大学短期大学部（杉山 勇人）

E-mail:sgym-hyt@kamakura-u.ac.jp